

コミュニティ・スクールにおける学校を核とした地域づくりを推進する運営・空間の研究  
 - コミュニティ・スクール指定後に改築工事を行なった小学校を対象として -

指導教員 加茂 紀和子 教授

市井 暁

1. はじめに

近年、少子高齢化や核家族の増加による地域コミュニティや、学校と地域の結束の弱体化が指摘されている。2004年に文部科学省は「地方教育行政の組織および運営に関する法律」の改正により、地域住民が学校教育運営に参画するコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度:以下CS)を制度化した。地域の学校支援による学校と地域の関係の再構築を図ると共に、最近では、スクール・コミュニティ(学校が核となった地域づくり)の場として学校が注目されており、各CSで地域づくりに関する取り組みが始まっている。CSは2016年4月1日時点で2,806校の公立学校が指定されており、その内1,819校は小学校が占めている。2017年4月からは公立学校でのCS設置の努力義務化が始まり、今後新たにCSを導入する小学校や、校舎建て替えの時期に合わせてCSに対応した施設整備の機会が増加すると予想される。本研究ではCSに対応した施設設備を持つ可能性が高いと考えられる、CS指定後に改築を行なった小学校を研究対象とし、学校が核となった地域づくりを推進するための運営と空間を明らかにすること目的とする。

2. 研究対象校の選定と調査方法

図1に研究対象校選定の流れを示す。学校HPにて学校運営協議会と校舎工事に関する記載がある学校を、地域に向けた積極的な情報発信を行っている学校と捉え、CS指定を受けた小学校1,819校のHPを閲覧し、CS指定後に改築を行った記載がある小学校16校を選定した。その内、調査協力を得た14校(表1)を研究対象校とする。表2に調査概要を示す。研究対象校に学校運営協議会と学校施設の地域づくり推進に関するアンケート調査、また、研究対象校全てを訪問し、学校施設の地域利用についてのヒアリング調査、空間の写真記録調査を実施した。

3. 学校運営協議会からみる地域づくりの推進

3.1. 学校運営協議会の役員属性割合と推進主体

学校運営協議会の役員属性割合と推進主体を図2に示す。役員属性を見ると、OM小、YS小は半数近くを教職員が占めており、YY小は教職員、地域住民、保護者、学識経験者がほぼ同人数である。他の学校は地域住民の人数が最も多い。推進主体を見ると、OM小、TM小、YS小、KE小、MG小は学校が推進主体となっており、その他の学校は地域と学校が連携して推進している。

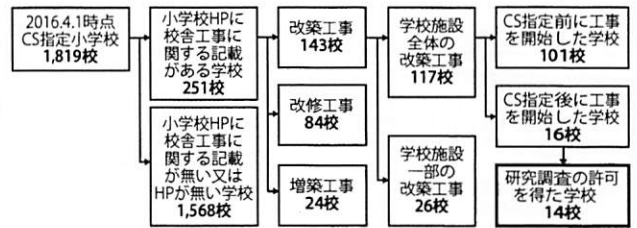


図1 研究対象校選定の流れ

表1 研究対象校一覧

地域	学校名	児童数	教職員数	学級数	CS指定日	改築工事開始日
岩手	OM小	61	18	6	2008/04/01	2015/04
	AZ小	356	27	13	2015/04/01	2015/05
東京	TM小	544	26	18	2009/04/01	2014/04
	KS小	733	35	21	2007/04/01	2009/06
	HD小	437	26	14	2007/09/10	2009/04
	KM小	834	47	25	2008/12/01	2013/07
神奈川	YS小	59	14	6	2007/02/19	2013/01
京都	KE小	103	20	6	2011/04/01	2011/04
岡山	KG小	613	33	19	2014/10/28	2015/04
	MG小	561	31	18	2012/04/01	2014/03
山口	HW小	508	36	18	2009/12/24	2010/08
	YY小	143	14	6	2008/04/01	2013/09
	AO小	138	14	6	2012/04/01	2013/09
佐賀	KK小	563	46	18	2009/04/24	2013/12

※文部科学省,2016,『コミュニティ・スクールの指定校一覧』に掲載

表2 調査概要

調査1 運営特性・空間特性と地域づくり推進に関する運営評価・空間評価調査	
調査方法	アンケート調査(調査対象校に電子メールを送信し、回答してもらう)
調査期間	2017年12月上旬~2018年1月中旬
調査内容	学校運営協議会について ・学校運営協議会の人数構成 ・代表者属性 ・年間の会議回数 ・活動の推進主体 ・議事内容 ・学校運営協議会の地域づくり推進に関する運営評価
	施設整備について ・改築工事期間 ・改築工事の目的 ・地域拠点・教育支援拠点設置の有無 ・学校施設の地域利用の有無 ・学校施設の地域づくり推進に関する空間評価
調査対象	研究対象校の校長・又は教頭
調査2 学校施設の地域利用についての調査	
調査方法	学校施設の使用されている場所のヒアリング調査及び写真記録調査
調査期間	2017年11月下旬~2018年2月下旬
調査内容	学校運営協議会について ・地域利用されている学校施設の室・場の設置階と空間構成 ・地域利用が可能な時間帯 ・地域利用の際の目的・利用者属性・利用頻度 ・地域利用の際の登録・手続きの流れ・鍵の管理 ・地域づくりに関する空間評価の要因となった学校施設の室・場の名称
	調査対象

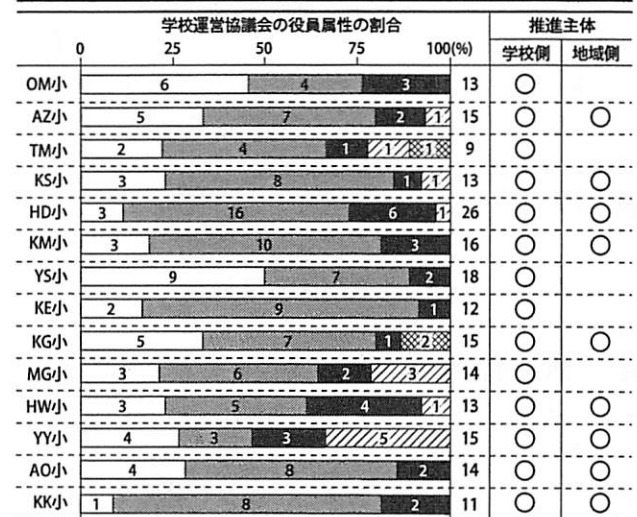


図2 学校運営協議会の役員属性割合と推進主体

A Study of Management and Space Promoting Community Development Centered on School in the Community  
 School: A Case Study of Primary Schools Renovated after Designation of Community School

Akira ICHII

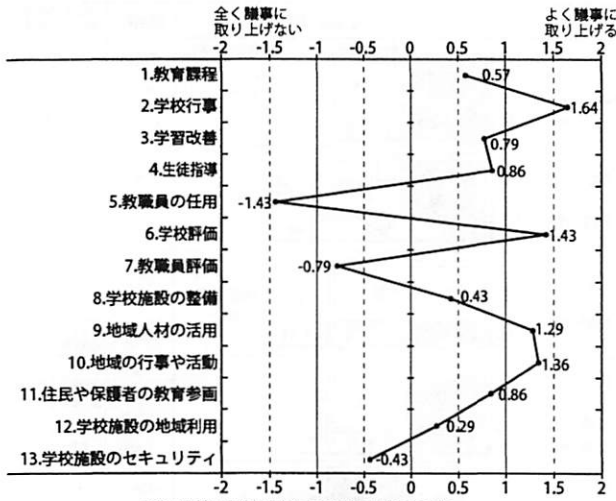


図3 学校運営協議会の議事内容の平均

### 3.2. 学校運営協議会の議事内容

学校運営協議会で取り上げられる議事内容の頻度の平均値を図3に示す。教職員の任用、教職員評価が議事に取り上げられていない一方で、地域人材の活用や、地域の行事や活動、学校施設の地域利用等、地域づくりに関する議事を取り上げられている。

### 3.3. 学校運営協議会の組織構成

学校運営協議会を中心とした学校と地域との関係を5つの型に分類した(図4)。教育支援活動を学校が直接地域に依頼する型(I型)、学校運営協議会が中心となり学校支援ボランティアとの依頼・調整を行う型(II型、II'型)、学校支援コーディネーターが地域と学校を繋ぐ型(III型、III'型)、また、同学区内の小中学校が連携した、小中一貫学校運営協議会を形成する型(II'型、III'型)がある。

### 3.4. 地域づくり推進に関する運営評価

学校運営協議会の地域づくりの推進に関する運営についての評価を分析するため、12項目の評価<sup>(注1)</sup>を変数とし、主成分分析を行った(図5)。第1、2主成分の軸の解釈をそれぞれ「評価得点」「教育支援と地域づくりの度合い」とした。分析結果より、全ての項目において高い評価を得た群(KK小、KG小、YY小)、一定の評価を得た群(KM小、AO小、AZ小、MG小)、教育支援の項目のみ評価を得た群(OM小)、地域づくりの項目のみ評価を得た群(HW小、HD小、KS小)、評価が低い群(KE小、TM小、YS小)の5つの群に分類した。

### 3.5. 学校運営協議会の運営特性と運営評価の比較

学校運営協議会の役員属性割合、推進主体、組織構成、議事内容の運営特性と、運営評価のクロス集計を行った(図6)。地域と学校が連携して推進している学校は、一定以上の評価を得た群に属している。教職員の役員属性割合が多いOM小、YS小は共にI型の組織構成である。図3で示した議事内容の「12. 学校施設の地域利用」と運営評価を比較すると、一定以上の評価を得た群では、学校施設の地域利用に関してよく議事に取り上げられる傾向があると言える。

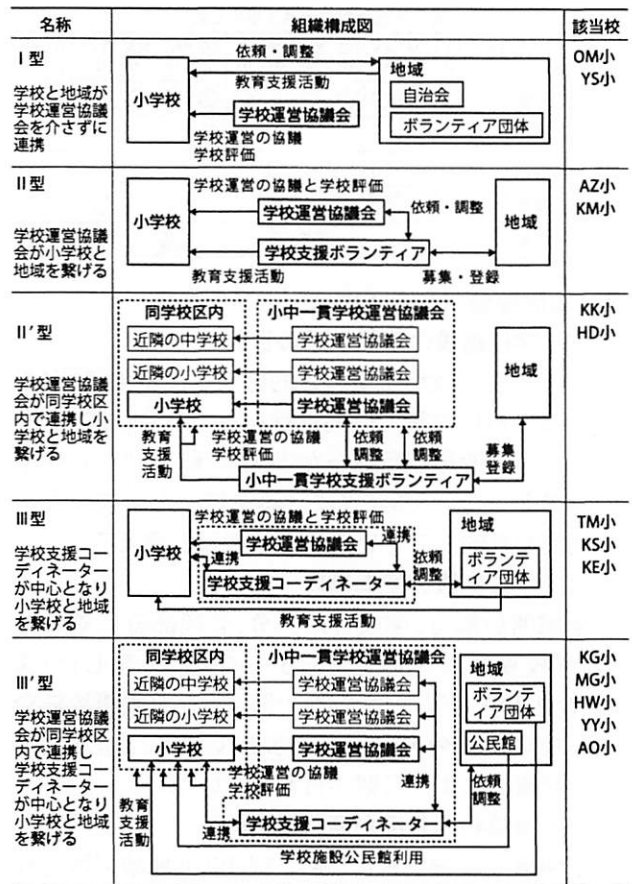


図4 学校運営協議会を中心とした組織構成の分類

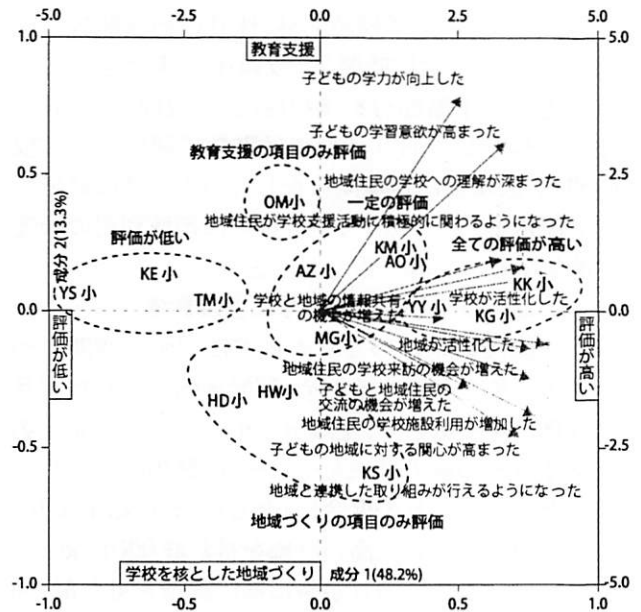


図5 地域づくり推進に関する運営評価の主成分分析

名称	学校名	役員割合	推進主体	組織図	12. 学校施設の地域利用の議事
全ての評価が高い	KK小	地域・保護者が多い	地域と学校が連携	II'型	よく議事に取り上げる
	KG小				
	YY小				
一定の評価	KM小	地域・保護者が多い	学校が推進	III'型	よく議事に取り上げる
	AZ小				
	AO小				
地域づくりの項目のみ評価	HW小	地域・保護者が多い	地域と学校が連携	II'型	よく議事に取り上げる
	HD小				
	KS小				
教育支援のみ	OM小	教職員が多い	学校が推進	I型	
	YS小				
	KE小				
評価が低い	TM小	地域・保護者が多い	学校が推進	III型	

図6 学校運営協議会の運営特性と運営評価の関係

表3 学校施設の改築工事の目的

学校名	OM小	AZ小	TM小	KS小	HD小	KM小	YS小	KE小	KG小	MG小	HW小	YY小	AO小	KK小
改築目的														
老朽化の対策		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
学校の統廃合	○							○	○					
学校開放対応				○			○					○		
CSの推進				○								○		○
その他						児童 増加	転入 増加			水害 対策				UD 対応

#### 4. 施設整備からみる地域づくりの推進

##### 4.1. 学校施設の改築工事の目的

CS指定後の改築工事の目的を表3に示す。殆どの学校は老朽化対策で改築を行っており、CS推進を目的とした改築を行なった学校は、KS小、YY小、KK小のみであった。CS指定後に改築を行った学校全てがCS推進を目的としている訳では無いと言える。

##### 4.2. 学校施設の空間構成

地域開放部分、学校専用部分、管理部分に着目して、学校施設の空間構成を5つの型に分類した(図7)。A型、B型、C型では空間構成による地域開放部分と学校専用部分の分離が行われており、D型、E型では空間構成による分離が行われていない。

##### 4.3. 地域利用頻度が高い室・場

空間構成の分類毎に、週に1回以上地域利用されている室・場を表4に示す。A型の学校は2階以上に位置する室・場を学校時間外、休日に地域開放しており、B型では学校時間内、放課後の開放をしている。C型では1階部分を学校時間内、放課後、休日に地域開放をしており、D型では階数に関係なく学校時間内、放課後に地域開放をしている。E型は頻繁な地域開放をしていない。空間構成は地域利用の頻度や開放階数に影響すると言える。

##### 4.4. 地域づくり推進に関する空間評価

学校施設の地域づくりの推進に関する空間についての評価を分析するため、運営評価と同じ12項目の評価<sup>(注1)</sup>を変数とし、主成分分析を行った(図8)。第1、2主成分の軸の解釈をそれぞれ「評価得点」「教育支援と地域づくりの度合い」とした。分析結果より、全ての項目において高い評価を得た群(KK小、KG小、YY小)、教育支援の項目が特に高い評価を得た群(OM小)、一定の評価を得た群(KS小、MG小、HW小、AZ小)、評価が低い群(AO小、YS小、KM小、TM小、HD小)、教育支援の項目のみ評価を得た群(KE小)の5つの群に分類した。

##### 4.5. 室・場の評価の割合

空間評価の要因となった学校施設の室・場の割合を図9に示す。OM小、AO小は室・場ではなく、改築工事の割合が高い。地域拠点を設置している学校(KM小、KG小、HW小、YY小、KK小)は地域拠点の割合が高く、特に、YY小、KK小は地域拠点が評価要因の割合の殆どを占めていると言える。

名称	断面による空間構成図	該当校	地域拠点	教育支援拠点
A型	学校時間外に扉による物理的なセキュリティ	TM小		PTA室
物理セキュリティ分離	2F以上	KS小		PTA室
		MG小		特別活動室
B型	2F以上	KG小	CR	PTA室
動線分離	1F	HW小	CR	
C型	AZ小のみ地域用玄関が無い	AZ小		PTA室
階数分離	2F以上	HD小		PTA室
		KM小		特別活動室
D型	2F以上	YS小		
分離なし管理1階	1F	YY小		地域交流室
		AO小		
		KK小	CR	
E型	2F以上	OM小		
分離なし管理2階	1F	KE小		PTA室

■ 地域開放部分 ▷ 地域用玄関 ▶ 学校用玄関 CR…コミュニティルーム  
 地域拠点…地域利用専用の室・場 教育支援拠点…教育支援専用の室・場

図7 学校施設の空間構成の分類

表4 地域利用頻度が高い室・場

空間構成	学校名	室・場の名称	階数	利用目的 地域・教育 利用・支援	主な利用内容	利用可能時間
A型	TM小	図書室	3	○	土曜日に地域住民向けに開放	c
	KS小	音楽室	3	○	地域の合唱団の練習	b
	MG小	会議室	2	○	地域の集会 / PTA会議 / 学校運営協議会会議	a b
		特別活動室	2	○	地域放課後教室 / クラブ活動の控入室	a b
B型	KG小	図書室	2	○	地域放課後教室 / 講演会会場利用	b
		コミュニティルーム	1	○	公民館利用 / 地域放課後教室 / PTA会議等	a b
	HW小	会議室	1	○	公民館利用 / 地域放課後教室 / PTA会議等	a b
C型	AZ小	PTA室	3	○	PTA会議 / PTAの事務作業	a b
	HD小	会議室	1	○	PTA会議 / PTAの事務作業	a b c
		PTA室	1	○	PTA会議 / 学運協議会 / 地域教育支援会議	a b c
		SS室	1	○	SS(スクールサポーター)の会議と作業	a b c
D型	KM小	特別活動室	1	○	地域の集会 / 地域教育支援会議 / PTA会議等	a b c
	YS小	生活科室	1	○	地域児童館利用	a b
		パソコン室	2	○	地域学童保育利用	b
E型	YY小	学習室	2	○	地域放課後教室	b
	AO小	地域交流室	1	○	公民館利用 / 地域放課後教室 / PTA会議等	a b
		図書エリア	1	○	地域住民の読み聞かせ活動	a
E型	OM小	なし				
	KE小	なし				

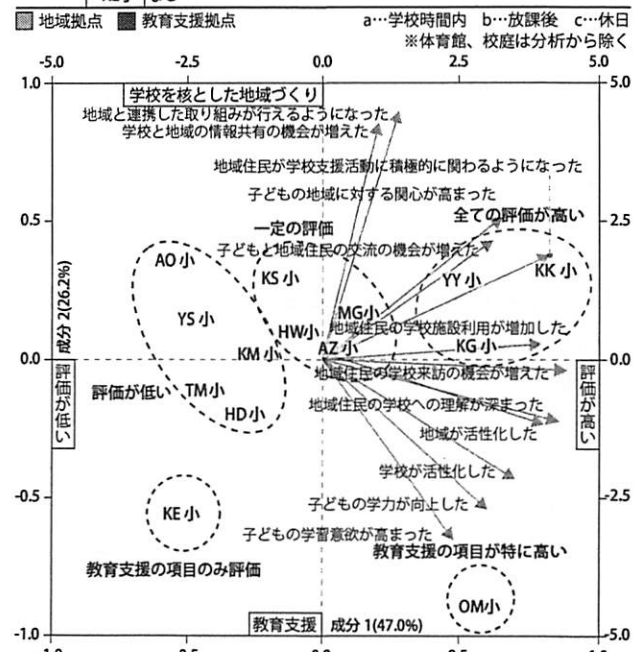


図8 地域づくりの推進に関する空間評価の主成分分析



#### 4.6. 施設整備の空間特性と空間評価の比較

学校施設の空間構成、拠点設置、地域利用頻度、評価要因の割合が高い室・場の空間特性と、空間評価のクロス集計を行った(図10)。地域拠点、教育支援拠点は共に地域利用頻度が高いが、地域拠点のみ評価の割合が高いという事が言える。

#### 4.7. 地域拠点の空間特性

地域拠点が設置されている5校の地域拠点の空間特性を図11に示す。地域拠点は収納やキッチン等の室内の居住性を高める整備、学校空間への室内の視認性を高める整備の2つの空間特性があると言える。地域拠点が評価要因の割合の殆どを占めるYY小、KK小は、廊下側からの室内の視認性が高く、かつ、学校主動線から近い位置に地域拠点を設置している。

#### 5. 結論

学校を核とした地域づくりを推進するための運営・空間についての知見を以下にまとめる。運営では、学校と地域を繋げる役割を学校運営協議会が担い、地域と学校が連携した運営環境を整えることで、地域づくりに関する議事に発展する環境が生まれる。空間では、地域利用に対応しやすい空間構成を選択し、地域拠点を学校主動線から近い位置に設置する事で、地域拠点を中心に頻繁な地域利用が生まれ、活発な地域づくりの場の形成へと繋がる。

	0	25	50	75	100(%)
OM小	改築工事	体育館	校庭	特別教室	その他
AZ小	多目的ホール	体育館	校庭	その他	その他
TM小	体育館	プレイルーム	校庭	その他	その他
KS小	多目的ルーム	体育館	校庭	図工室	その他
HD小	会議室	ランチルーム	芝生	その他	その他
KM小	特別活動室	ピロティ	家庭科室	特別教室	その他
YS小	体育館	校庭	会議室	和室	中庭
KE小	多目的ホール	ガレリア	その他	その他	その他
KG小	コミュニティルーム	改築工事	家庭科室	その他	その他
MG小	会議室	特別活動室	特別教室	改築工事	その他
HW小	コミュニティルーム	会議室	パソコン室	家庭科室	図工室
YY小	地域交流室	その他	その他	その他	その他
AO小	改築工事	相談室	職員室	その他	その他
KK小	コミュニティルーム	その他	その他	その他	その他

□ 学校空間 ■ 地域拠点 ● 教育支援拠点 ▨ 改築工事 ▩ その他

図9 空間評価の要因となった学校施設の室・場の割合

名称	学校名	空間構成	拠点設置	利用頻度が高い	評価の割合が高い
全ての評価が高い	KK小	D型	地域拠点	地域拠点	地域拠点
	KG小	B型	教育支援拠点	地域拠点	地域拠点
	YY小	D型	教育支援拠点	学校空間	学校空間
教育支援が高い	OM小	E型	教育支援拠点	改築工事	改築工事
	KS小	A型	教育支援拠点	学校空間	学校空間
一定の評価	MG小	A型	教育支援拠点	教育支援拠点	教育支援拠点
	AZ小	C型	教育支援拠点	学校空間	学校空間
	HW小	B型	地域拠点	学校空間	地域拠点
評価が低い	KM小	C型	教育支援拠点	地域拠点	地域拠点
	HD小	C型	教育支援拠点	教育支援拠点	教育支援拠点
	TM小	A型	教育支援拠点	学校空間	学校空間
	YS小	D型	教育支援拠点	学校空間	学校空間
教育支援のみ評価	AO小	E型	改築工事	改築工事	改築工事
	KE小	E型	改築工事	改築工事	改築工事

図10 施設整備の空間特性と空間評価の関係

学校名	KM小	KG小	HW小	YY小	KK小
地域拠点設置階の平面図					
地域拠点の平面図					
地域拠点名	特別活動室	コミュニティルーム	コミュニティルーム	地域交流室	コミュニティルーム
居住性の向上	収納 ○	収納 ○	収納 ○	収納 ○	専用倉庫 ○
	専用トイレ ○	キッチン ○	キッチン ○	キッチン ○	専用倉庫 ○
	専用玄関 ○				
視学・校性空間への向上	廊下側からの視認性 ○	廊下側からの視認性 ○	廊下側からの視認性 ○	廊下側からの視認性 ○	廊下側からの視認性 ○
	学校主動線と設置位置の関係 ○	学校主動線と設置位置の関係 ○	学校主動線と設置位置の関係 ○	学校主動線と設置位置の関係 ○	学校主動線と設置位置の関係 ○

▶ 地域拠点出入口・地域用玄関 ▷ 学校用玄関 ■ 地域拠点 ■ 学校主動線

学校主動線…学校用玄関から普通教室までの動線

図11 地域拠点の空間特性

【注1】佐藤 晴雄, 2017, 『コミュニティ・スクールの成果と展望』p315, 「コミュニティ・スクールの実態と校長の意識に関する調査」のアンケート項目の中から、地域支援に関する評価項目と学校を核とした地域づくりに関する評価項目を引用し、本研究の評価項目を作成した。  
【参考文献】1) 牛丸 匠, 小松 尚, 2013, 「地域利用のために整備されたコミュニティ・スクールの部屋や場所の利用実態」『日本建築計画系論文集』第78巻, 第689号 p1477-p1488

2) 佐藤 晴雄, 2017, 『コミュニティ・スクールの成果と展望』ミネルヴァ書房  
3) 佐藤 晴雄, 2016, 『コミュニティ・スクール「地域とともにある学校づくり」の実現のために」エイデル研究所  
4) 文部科学省, 2018, 『コミュニティ・スクール2018』初等中等教育局参事官付  
5) 文部科学省, 2016, 『コミュニティ・スクールの指定校一覧』初等中等教育局参事官付